

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 5 回高松市競輪事業検討委員会
開催日時	平成 3 0 年 4 月 2 6 日（木） 1 3 時 3 0 分～ 1 5 時 3 0 分
開催場所	高松競輪場研修室
議 題	(1)前回会議における質問に対する回答 (2)評価基準に基づく施設の代替案について (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	石川委員、板谷委員、七條委員、西村委員、万野委員、 矢野委員、米澤委員
傍 聴 者	7 人（定員 1 0 人）
担当課及び 連絡先	競輪場事業課庶務係 8 5 1 - 5 0 3 6

会議の経過及び結果

・ 会議の公開について

本日の会議については、個人情報等の非公開となるような事項の審議は想定されないことから、公開とすることとした。

(1) 前回会議における質問に対する回答

事務局から、資料を基に説明し、委員から意見や質問等を求めた。

- ・ 施設代替案【研修室追加】
- ・ 収支見通し【特別競輪（G I ・ G II）開催追加】
- ・ 競輪事業収支の推移
- ・ 競輪事業関係者数・経費

（万野委員）

前回、西スタンドを解体・撤去した場合、風よけ対策を考えなければならないとあったが、その対策費用も含まれているのか。

（事務局）

この資料には風よけ対策に係る費用は含まれていない。参考例として、武雄競輪では、スタンドを撤去し、その場所に、バンクの傾斜の一番高い位置に、土手のように通路を設置している。資材コストを抑える

ことにより、経費削減を図っているようである。壁には、選手の横断幕も掲示できるようになっているほか、風よけにもなっていると聞いている。高松も武雄を参考にすれば良いと思うが、現在のところ、選手側から風に対する意見は出ていない。

(板谷委員長)

風よけは、あった方が良いでしょうということになるが、風よけを設置せず、風の影響をあえて受けて、荒れるレースを楽しむというのも一つの選択肢である。西スタンドとバンクはかなりの高低差があるようだが、綺麗に更地にすることは可能か。

(米澤委員)

どこまで行うのかにもよるが、可能である。競輪場敷地全体で高低差があることから、高低差のない更地にするのであれば、バンクの地盤レベルになるのではないか。

(矢野委員)

改修パターン5の場合、北・西スタンド、事務所等を撤去することになるが、耐震補強しても長くは持たず、その後、全部を撤去することになるのであれば、このパターンが一番合理的だと思うが。

(事務局)

将来を見据えてほぼ全ての施設を撤去し、新築するのも選択肢であるが、撤去には時間もかかることから、既存の建物を利用しつつ、安全安心に、お客様に競輪を楽しんでいただけるよう、また、工期や費用対効果も考えなければならない。

(矢野委員)

北スタンドを耐震補強しても、耐用年数により将来撤去するのであれば、費用が無駄になるのではないか。

(事務局)

耐用年数から考えると、そういう考えもあるが、北スタンドの1階には検車場や道場があるため、北スタンドは耐震補強し利用することを想定した改修パターンを設定している。西スタンドについては耐震問題で危険性も高いことから、早い段階で撤去し、新しい投票所を設置するという案をこのパターンで示している。耐用年数から考えると全てを撤去し、新築した方が良いが、愛着のある部分は残しつつ、付加価値を高めるような御提案をいただけるよう、改修パターンを設定している。

(矢野委員)

北スタンドを撤去した場合、競輪事業に支障を来すのか。

(事務局)

収益確保のために、当該年度の下半期、次年度の上半期を工期とするなど、工夫する必要があるが、いずれにしても一度に撤去することは無理であり、優先順位をつけながら、数年にわたり工事を行っていくものとする。また、工事期間中は、本場開催ができないと考える。

(板谷委員長)

北スタンド撤去の際には選手等の動線について検討する必要があるのではないかと考える。

(事務局)

仰るとおり、動線を再検討する必要がある。

(板谷委員長)

事務所や研修室をそれぞれに建設するのではなく、一体化することは可能か。また、一体化することで費用が下がるのではないかと考える。

(事務局)

一体化は可能であり、多様な用途に活用できる可能性があり、費用も下がると考える。

(板谷委員長)

北スタンドの西側にブロック造りの古い建物があるが、あれは何か。

(事務局)

非常用発電装置を設置している建物である。

(板谷委員長)

施設が一新された際には、その建物も、外壁の塗り直しなどが必要であろう。

(石川委員)

資金収支について、過去に香川県薬剤師会に土地を売却したとのことであるが、どの場所を、いくらで売却したのか。

(事務局)

競輪場北側テニスコート西隣の土地 8 6 1 m²を 6, 7 0 0 万円で売却

したもので、坪単価は20万円余である。また、消防局朝日分署に無償提供した土地のほか、民間に貸付している土地もあり、貸付面積は、約4,000㎡で、貸付額は600万円余である。

(矢野委員)

駐車場も含めた全体図を示してほしい。

(板谷委員長)

選択案の議論を行う上で、参考になると思うので、貸付を含めて、競輪場が所管している土地全体を示していただきたい。

(事務局)

次回までに用意する。

(板谷委員長)

収支見通しの中で、耐震補強やリニューアルした場合、資金の借入れや償還はどうなるのか。

(事務局)

本市が起債により事業を進めていく場合は、3年据え置き10年償還が基本となり、3年間は利子のみを支払い、その後、元金と利子を合算し、10年から15年で償還することとなる。改修案が決まれば、これを収支見通しに反映させることはできると思う。

(石川委員)

改修するとすれば、半年ずつ休むとあったが、それも収支にかなり影響すると思われるので、そのことも含めて考えるべきである。

(事務局)

これまで耐震改修した競輪場は、当該年度の下半期、次年度の上半期を休んで工期としている。震災の影響を受けた熊本競輪や、250mバンクに改修する千葉競輪も、近隣の競輪場を借上げて開催しており、高松も他場を借上げて開催することもあり得る。

(板谷委員長)

代替案を絞る際に、プランの中に休止期間、それに伴う減収、それを補う他場での開催、お金に関するタイムスケジュールを示すことが必要となる。

(事務局)

今回の収支見通しに、お金（改修費用10億円・15億円等）に関するタイムスケジュールや他場を借上げた場合等について示したものを用意する。

(石川委員)

売上1.5%減で大丈夫という根拠は何か。

(事務局)

全国の競輪の売上実績をベースに算出した。全国の売上げは、ここ数年は微増しており、29年度は前年度比0.9%増の微増である。

(石川委員)

中心となる客層は高齢者であるが、1.5%減で大丈夫なのか。競輪にも2025年問題の影響があると思うが、売上げがマイナスから横ばいになったということは、入場者数も増えたのか。

(事務局)

入場者数については、地方では減少しているが、電話投票・ネット投票の割合が増えてきており、売上げは微増している。今後も他場における場外発売の協力や、電話投票等により、一定の売上げが見込めることから、1.5%減は妥当と判断している。熊本競輪の検討会における検証においても、1.5%減を用いて試算していたので御理解いただきたい。

(万野委員)

ネット投票というのは若い層にも増えてきているのか。

(事務局)

年齢層は分からないが、競輪場に来なくても、自宅で投票できる環境になってきている。CMを上手く利用し、売上げを伸ばしていこうと中央では考えているようである。

(板谷委員長)

高齢者が中心ということで集客数は減少する中、売上げをキープするのが目的と思われる。

(石川委員)

個人的意見であるが、ギャンブルを推奨しつつ、売上げを増やすとい

うのは疑問である。競輪を実際に見ると、オリンピックのパシュートに似ている部分があり、それに参加意識をもった少額の購入であれば構わないのかもしれないが、場外での売上げが伸びるといのは、単に、若い層にギャンブルを推奨するということになると思う。また、広い競輪場で、バンクを使用しているのが本場開催の40日のみといのは、稼働率の面でどうなのかと思う。他の競輪場を借上げて開催できるのであれば、施行者はバンクを持たなくても、他の競輪場を借上げて開催できるということか。

(事務局)

非常に難しいと考える。現にバンクを持つ施行者間において、開催に支障を来さないよう、施設改修の際に協力をしていくということであり、そもそもバンクを持たない施行者が開催できるということではない。

(板谷委員長)

競輪事業関係者数・経費一覧中、市職員の数が本場開催と場外開催で異なる理由について。

(事務局)

本場・場外開催ともに一般職員の人数は同じであるが、本場開催時に従事していただく医師・看護師の人数だけ本場開催が多くなっている。

(板谷委員長)

競技関係者といのは、選手ということか。

(事務局)

選手のほか、レース運営や審判を行うJKA職員を指す。

(板谷委員長)

警備・環境・給食・保守関係は民間に委託しており、その方々の雇用の割合が高くなっている。

(矢野委員)

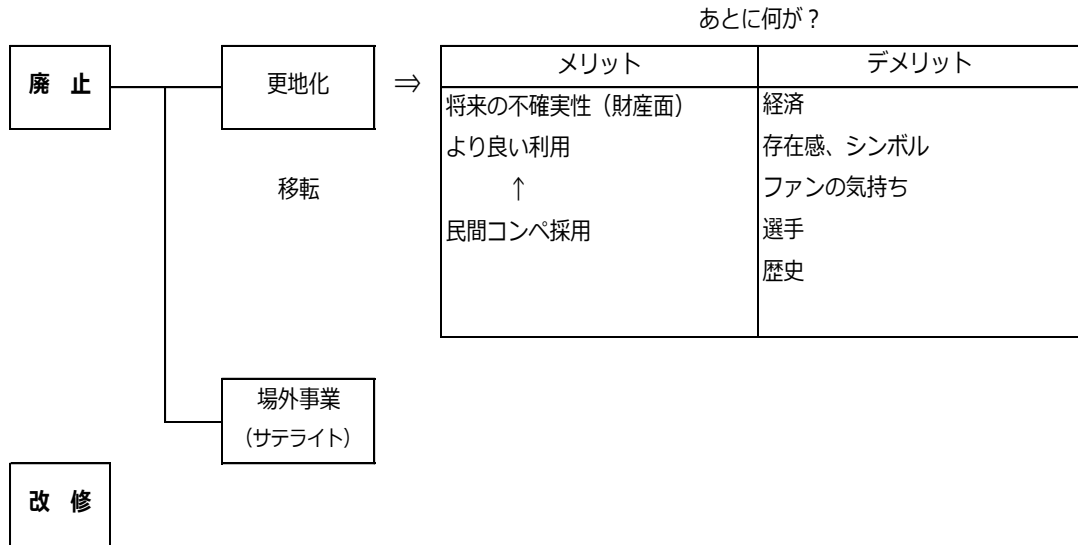
市職員と競技関係を除いた部分が地元関係になるのか。

(事務局)

概ね競技関係を除いた部分が地元関係になる。従事員は臨時職員であり、地元の方を採用している。

(2) 評価基準に基づく施設の代替案について

資料を基に、それぞれの立場から意見等を求めた。



改修に際してほかに考慮すべきこと ⇒ 利用者（市民）の意見を酌む ⇒ 選手にとってのベース化
 運営（アンケートの指摘事項への対応） ⇒ スポーツの夢
 遠足の対象地化

塗り直し、内装、トイレ
 女性・キッズコーナー
 完全分煙
 公園、外構（植樹）
 フードコート（場所の精査）
 防災拠点

} 見取り

発信（ネット・メディア）見取り
 インバウンド対応
 イベント（開催費用/日）

（板谷委員長）

改修以外に廃止という選択もあり、廃止後は、更地化又は場外車券売場にするという選択がある。前回のアンケートには様々な意見があり、競輪場のイメージが悪いという意見も多く、在り方を検討するという意味では、アンケートの意見は貴重である。より良くする意見を集約し、最終的に委員会としていくつかの代替案を市長に示すことになるので、代替案のメリット・デメリットを検討することが必要である。

まず、更地化に対してはどうか。メリットとして、将来の不確実性に対するリスクがなくなる一方、デメリットとして、経済効果、雇用の減少、存在感、ファンの気持ちなどがある。

（西村委員）

更地化はない。理由としては、雇用のあることあるが、ファンや選手の気持ち、歴史もある。高松のシンボルとして、これからの可能性の方が高いと考える。活性化する選択肢がたくさんある中、また、更地にした後に何をするか決まっていないう状態で更地化は考えられない。

(七條委員)

存続と考える。しかし、最悪の場合、場外車券売場（サテライト）化しても致し方ないと思う。

(石川委員)

更地化する場合でも、移転することも選択肢に含めた方が良く思う。また、広い土地なので民間を活用するような選択肢も必要かと思う。

(板谷委員長)

移転については費用面等の課題もあるだろう。続いて、改修について案が出ているが、在り方として、これだけはしておくべきだろうという意見はないか。

(万野委員)

耐震補強だけではなく、費用はかかると思うが、中央スタンドの外壁、床、女性用トイレ、公園、女性・キッズコーナーの改修など、皆が来たくなるような施設にしてほしい。

(矢野委員)

アンケートの意見については、一つからでも改善する努力が必要である。更地化する場合は、その後の用途が明確になっていることが前提となり、一方、改修の場合、競輪事業で収益が上がるかどうかにかかってくる。

(万野委員)

アンケートにもあったが、防災拠点として期待する。スタンドが残った場合、スタンドの下を備蓄スペース等に活用してほしい。

(板谷委員長)

リニューアルする場合、ネット等の発信力を高めてほしい。また、全体的に外構・フェンスが場当たりの、お客様に来てもらう雰囲気が出ていないと感じる。

(石川委員)

利用者の意見を酌むということに尽きるのではないか。利用者に限らず市民の意見を命題に掲げる必要がある。更地化のメリットとして、将来の財政危機や不確実性がなくなるほか、より良い利用方法があるかもしれないといったこともあるだろう。

(西村委員)

売上1.5%減が妥当かどうか判断し難いが、高松市民の人口、年齢層、国内・海外観光者などの数から、どこに焦点を合わせていくのかが見えてくるのではないかと。例えば、高松に来た観光者がナイトー競輪に行き、車券を買うといった選択肢があれば良いのではないかと。思う。

今後発信するメディア・ネットの面でいうと、例えば、松山競輪ではホームページの多言語化がしっかりしており、これから高松も多言語化に対応していくことを考える必要がある。多額の費用がかかることではあるが、可能な選択肢がある中で、予算化することが大事ではないか。

選手については、県内外のパラリンピックの陸上選手と対話した際、また高松に合宿に来たいという話があった。スポーツ選手の合宿などの一歩の候補地となる場が高松になってほしいし、競輪場は可能性が高い。選手が高松で育つということは、将来性ができるということで、高松で良い選手生活が経験できたら、きっと高松に戻って来てもらえると思う。

(板谷委員長)

選手に高松競輪場で練習したいと思ってほしいということか。

(西村委員)

子どもたちにとって、競輪選手に限らず、スポーツ選手になる夢を与えられる場になってくれれば良いと思う。

(板谷委員長)

建物のみであれば、売上1.5%減でも、違う施策が入ってくると変わるかもしれない。イベントスペースの活用のアイデアも出てくるだろう。

(米澤委員)

競輪場をただ競輪のためだけではなく、イベントを開催することにより、人が来るきっかけを作るとするのが良い。他の競輪場では、イベント開催によって利益を上げている例もあるのでないか。

(事務局)

ドーム型の競輪場で、バンクの内側がステージになっており、催物を行っているところもある。

(板谷委員長)

食事スペースをフードコートのようなものに見直す必要があると感じ

る。中央スタンドを建て直さなくても、本場開催時に、イベント的に外に屋台を設置するなど、若い人に来てもらえるよう工夫する必要がある。

(矢野委員)

2月の記念競輪(玉藻杯)では多くの女性や子どもたちの来場が見られたが、イベントはこれ以外に開催されていないのか。

(事務局)

昨年度は記念競輪のほか、FIでは西日本カップにおいてイベントを開催したが、経費の関係もあり、売上げに見合ったイベントの開催になっている。先着何名にプレゼントのような企画はあるが、今後、経費をかけないで行えるイベントや、大きなレースの前には、イベントスペースを活用したPRも取り入れてみたいと思う。

(矢野委員)

一般企業の協賛を得ることは可能か。

(事務局)

民間名の冠カップ開催など、可能性としてはある。特定の年齢層に限らず来ていただけるよう、新たな方策を検討してきたい。28年度に開催したウィナーズカップで好評だったパンフェスタは継続して行っている。

(矢野委員)

商店街の活用など、人が集まる策を考えてほしい。

(石川委員)

改修に関わらず、完全分煙にしてほしい。存続であれば、小学校の遠足で競輪場に行きたいと思える施設にしてほしい。

(板谷委員長)

いろいろなアイデアは出るが、大事なものは費用である。次回、床の塗り直し、トイレ・内装・外構などの改修費用、フードコートの設置費用、イベントの開催費用、発信力をどの程度行うかを決めての費用、代替案の組合せをどうするか。費用が10億円であれば、その額が償還可能かどうか、また、代替案について、見積りを踏まえ、費用内に収まるかどうか検討し、次回いくつかにまとめたいと思う。

(矢野委員)

ナイター照明設備については、耐震改修パターンには入っていないが、これについては事務局で決定することで良いのか。

(事務局)

収支見通しのとおり、ナイター照明設備なくしては、これらのアイデアを反映することは不可能であるため、ナイター照明設備を設置した上で、リニューアル案を示していくことになる。

(矢野委員)

その場合、設置費用 2 億円の返済については、どうなるのか。

(事務局)

昨年度末に施設整備基金に 4 億円積み立てており、これを原資として対応したいと考えている。

(3) その他

事務局から、今後の在り方の参考に、次回、競輪関係者（JKA・選手会・香川県自転車競技連盟・ファンクラブ代表者）のほか、傍聴者の意見を聞く機会を設けることについて提案し、了承を得た。

(閉会)